



主要な農作物の生育情報

令和8年度 第6号

(令和8年9月10日現在)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水稻（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査におけるコシヒカリの出穂期は、平年より2～4日遅くなっています。なお、刈取始期の目安となる出穂後の積算気温 1,000℃の到達日は平年の成熟期より概ね遅くなる見込みです。

表1 農業総合センターにおける水稻の生育状況

調査場所	品 種	移植期 (月.日)	出穂期			積算気温 1000℃		成熟期 (月.日)
			本 年 (月.日)	平 年 (月.日)	平年差 (日)	本 年 (月.日)	平 年	
本 部	ひとめぼれ	5.15	7.31	7.31	0	9.12	9.9	
	天のつぶ	5.15	8.4	8.3	+1	9.16	9.12	
	コシヒカリ	5.15	8.11	8.8	+3	9.26	9.17	
会津地域 研 究 所	ひとめぼれ	5.20	7.30	7.29	+1	9.9	9.11	
	天のつぶ	5.20	8.3	8.2	+1	9.13	9.13	
	コシヒカリ	5.20	8.6	8.4	+2	9.17	9.15	
浜 地 域 研 究 所	ひとめぼれ	5.11	7.30	7.28	+2	9.11	9.9	
	天のつぶ	5.11	8.1	7.30	+2	9.13	9.16	
	コシヒカリ	5.11	8.9	8.5	+4	9.22	9.18	

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 平年は会津地域研のコシヒカリでは前4年平均（2021, 2023～2025年）、それ以外では前5年平均（2021～2025年）

注3) 積算気温 1,000℃の欄は、本部がアメダス郡山、会津地域研究所がアメダス若松、浜地域研究所がアメダス相馬における出穂後の日平均気温積算値 1,000℃到達日を示す。
9月7日まで本年値、9月8日以降は平年値を用いた。

2 大豆（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査における大豆の開花期は、本部（郡山市）の標播を除き、平年より遅くなっています。

表2 農業総合センターにおける大豆の生育状況

調査場所	播種 時期	品 種	播種期 (月.日)	出芽期 (月.日)	5葉期 (月.日)	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)
本 部	標播	タチナガハ	6.1 (－1)	6.10 (－1)	7.4 (±0)	7.23 (－2)	[10.25]
		里のほほえみ	6.1 (－1)	6.10 (－1)	7.4 (±0)	7.24 (±0)	[10.24]
	晩播	タチナガハ	6.19 (－1)	6.26 (－2)	7.18 (－1)	8.5 (+2)	[10.29]
		里のほほえみ	6.19 (－1)	6.26 (－1)	7.18 (±0)	8.6 (+3)	[10.28]
会津地域 研 究 所	標播	あやこがね	6.1 (±0)	6.8 (－1)	7.3 (－1)	7.24 (+2)	[10.22]
		里のほほえみ	6.1 (±0)	6.8 (－1)	7.3 (－2)	7.25 (+2)	[11.2]
浜 地 域 研 究 所	標播	タチナガハ	6.11 (+4)	6.19 (+6)	7.14 (+5)	7.31 (+3)	[10.30]
		里のほほえみ	6.11 (+4)	6.19 (+6)	7.15 (+7)	8.1 (+5)	[10.25]

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) ()内の数字は、前5年平均（2021～2025年）との比較。[]内の数値は、平年値。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

夏秋雨よけ栽培は、7～8月の日照不足によって平年に比べて出荷量の減少や収穫盛期の遅れが発生しています。果実肥大が停滞し、曲がり果や尻太果、短形も増加しています。

露地栽培においても、同様に日照不足の影響が生じており、加えて台風の余波等の大雨や強風によって湿害やスレ果が発生しています。

病害は、雨よけ・露地栽培共にべと病やつる枯病が多くみられており、露地では炭そ病も増加しています。害虫は、アザミウマ類やハダニ類、アブラムシ類、一部ほ場では、カメムシ類やウリハムシが概ね平年並みに発生しています。

2 夏秋トマト

県南地方の4月定植の作型では、11～13段花房が開花、南会津地方の5月下旬定植の作型では、10～11段花房が開花しています。近年発生が増加していた高温による花落ち、花飛びの発生は昨年に比べて少なくなっています。

一方で、日照不足による草勢低下や着果不良が発生しており、また果実肥大や着色が進まないことで収穫量が平年より少なくなっています。

病害は、葉かび病やすすかび病、灰色かび病、褐色輪紋病が増加しています。近年発生が増加している黄化葉巻病は、耐病性品種の導入を始めとした総合防除の実施等によって昨年より被害ほ場は少なくなっています。害虫はオオタバコガやトマトキバガは各地で昨年より発生時期が早く、発生数も多くなっています。コナジラミ類は中通りでは平年より少なく、いわきでは平年より多い発生となっています。その他、アザミウマ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類が平年並みに発生しています。

3 さやいんげん

4～5月播種の作型は概ね収穫が終了し、6月播種の作型が収穫期となっています。近年発生が増加していた高温による落花の発生は昨年に比べて少なく、順調な生育となっています。

病害虫は、角斑病やハダニ類、アザミウマ類、カメムシ類の発生が例年並～やや多く、アザミウマ類やカメムシ類によるさやへの食害も一部見られています。

4 夏秋ピーマン

県中地方のトンネル栽培では11～12番果、露地栽培では8～9番果が収穫されています。7月から8月にかけて曇雨天が続き、日射量が少なかったことで平年よりも着果数が少なく、節数、草丈等の生育も平年から4～7日程度遅れています。

病害虫はアブラムシ、タバコガ類の発生が散見されるほか、モザイク病、斑点病がやや多い発生となっています。

【果 樹】（福島県農業総合センター果樹研究所における9月1日現在の生育概況）

1 もも

「川中島白桃」の収穫開始は8月10日で平年より10日早く、収穫盛期は8月16日で平年より7日早くなりました。果実の大きさは429gで平年より大きく、糖度は12.9° Brixで平年並でした。

「ゆうぞら」の収穫開始は8月17日で平年より9日早く、収穫盛期は8月19日で平年より11日早くなりました。果実の大きさは418gで平年より大きく、糖度は13.0° Brixで平年並でした。

「さくら白桃」の収穫開始は8月31日で平年より8日早くなりました。

2 なし

「幸水」の収穫盛期は8月22日で平年より5日早くなりました。果実の大きさは409gで平年並、糖度は11.6° Brixで平年よりやや低くなりました。

「豊水」の収穫開始は8月31日で平年より9日早くなりました。

3 りんご

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が76.6mm（平年比106%）、横径が83.5mm（平年比105%）で平年よりやや大きい状況です。満開後日数で比較すると平年並です。

イ 「つがる」の収穫状況

「つがる」の収穫開始日は8月24日で平年より2日早く、収穫盛期は8月28日で平年より2日早く、収穫終期は8月31日で平年より4日早くなりました。

果実の大きさは326gと平年より大きく、糖度は12.1° Brixと平年よりやや低く、硬度は11.7ポンドと平年並でした。

4 病害虫の発生

リンゴ褐斑病やモモせん孔細菌病などの病害の発生が一部地域で増えています。また、果樹カメムシ類による果実被害やハダニ類の発生は場割合は各樹種で高くなっています。8月31日付けで病害虫発生予察情報・発生予報が発表されており、果樹情報等においても注意を喚起し、現地における防除対策の徹底を図っています。

【花 き】

1 コギク

8月咲きは、7月下旬～8月上旬に、平年より早く開花終期となりました

9月咲きは、草丈、葉数とも、概ね平年並～高い状態となっています。一部、8月下旬から開花が始まっており、平年より7日程度早まっています。

病害虫では、アザミウマ類、オオタバコガ類、ハダニ類等が散見されています。

2 リンドウ

8月盆向けの品種の収穫は、平年よりやや早い～平年並みとなり、8月上～中旬に収穫終期となりました。

9月彼岸向けの品種は、草丈、葉数とも概ね平年並～やや高い状態です。収穫が開始されており、9月上～中旬に収穫盛期となる予想で、平年よりやや早い見込みです。

病害虫は、黒斑病、褐斑病、アザミウマ類、タバコガ類等の小発生が見られます。

【飼料作物】

1 牧草

2番草は収穫が終わり、3番草の生育期となっています。一部地域では7月～8月の長雨の影響で一部湿害が見られたため、3番草の生育は平年並～平年よりやや少ない収量となる見込みです。

2 飼料用トウモロコシ

一部地域では7月～8月の長雨の影響により、湿害が一部みられたため、収量は平年並み～平年よりやや少ない状況です。8月下旬から収穫・調製が行われています。

3 W C S用稲

8月中旬から収穫・調製が行われています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ 農作業事故を防止しましょう！

降雨が多くなっている地域では、地盤が緩み、崩れやすくなっているところがありますので、ほ場点検を行ってから作業を開始しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>